

F 14 若年婦人の「自立の学習」と家政教育(2) —グループ学習参加方式を通して—
広島大教育 ○山田 綾 関 志比子

目的 本研究は、第1報に述べた実態から、若年婦人層の学習参加を容易にするためにグループによる「グループワーク」を創出した。これは、最も親和的な学習仲間によるグループ学習参加方式である。各グループは、家政教育の内容を持つグループワークのプログラムを作成し、これをセンター学習と連動する方法によって学習活動を実施した。家政教育領域の学習内容別に、新しく試みられた学習方式として「グループワーク」の学習効果を検討し、家政教育における若年層婦人の学習の充実をはかることを目的とした。

方法 広島県福山市 I地区を研究拠点として、昭和56年9月～12月「グループワーク」を取り入れた学習活動を実施し、これに参加したグループの中から性格の異なる2グループの学習者計13名に対して、昭和57年2月に面接による調査を行った。

結果 1、「グループワーク」では、リーダーやコーディネーターの有無により、学習の活性化が左右される。また、リーダーの価値観により学習の方向が左右されやすい。

2、家政教育の成果としては、現実の家庭生活の改善を目指す学習活動において、学習した結果が理解から実践へと発展するのが望ましいがそのテーマが、「食品添加物」といった実務的な学習内容を持つ場合には、婦人による単独の学習で実行段階への発展が可能である。一方、婦人の自立にかかわる生活課題については、婦人自身の意識の啓発には効果的であるが、夫をはじめとする家族の理解や協力がなければ、実行段階への昇華は極めて困難であるということが判明した。